

『APA に学ぶ看護系論文執筆のルール』 APA のエッセンスを 押さえた日本語論文執筆 マニュアル

著：前田樹海・江藤裕之／定価：1,890 円(本体 1,800 円+税 5%)
発行：医学書院／TEL：03-3817-5657



本書は、アメリカ心理学会(APA: American Psychological Association)の論文執筆マニュアル(Publication Manual)の考え方をベースにして書かれた日本語論文執筆マニュアルと言ってよいだろう。著者である前田氏と江藤氏は、APAのPublication Manual 第二版の翻訳者でもあるので、本書はAPAのエッセンスを押さえつつ、日本の看護学術界の状況をふまえた論文執筆のガイドとなっている。APAのエッセンスを押さえてあるので、英語論文の執筆にも役に立つのが魅力だ。

論文を書くのは常に大仕事である。大量の文献を読み、説得力をもってデータを示し、制限字数のなかで一貫性を保ちつつ論理的に展開するのは誰にとっても大変な作業だ。こういった大仕事と並行して、細かい字で書かれた分厚い論文執筆マニュアルを読むのを苦痛に感じる人は多いのではないかと思う。実は、私自身がそうである。APAのマニュアル最新版(英語)は購入しているが、なかなかマニュアルを読み解く気力がおきないまま本棚に並んでいる。APAマニュアルを読む必要性は知っているが、実はきちんと読んだことがないという私のような方々は、多数いらっしゃるのではないかと想像する。そういう方々にとっては、この本の出版はまさに福音である。

この本の前半(第1章～第3章)は、論文執筆の心構え、論文の種類と構成、論文のスタイルや

文体などに関する章であり、論文を書く前に読んで心に留めておくといえる内容といえる。後半(第4章～第6章)は、論文でのデータの提示方法、文献の引用方法、文献リストの記載方法に関するテクニカルな内容になるので、論文を書きながら必要なときに参照するのが効果的と思われる内容で占められている。もちろん、どの章もよく構造化され、小見出しが豊富で、内容はすべて箇条書きで整理されているので、必要なところから読んで理解できるのも魅力である。

この本を読みやすくしているのは、箇条書きでの簡潔な記載の頭に「基本」「提言」「原則」「例外」との区分が明記されていることである。「基本」はAPAマニュアルから抜粋された事項であり、準拠すべき事項といえる。「提言」は定説ではないものの便利な手法として著者たちが薦める事項である。「原則」は原則的な考え方であるが、学会誌等によっては多少異なる場合がある事項で、「例外」は原則の例外事項である。この区別を見ながら読み進めれば、準拠すべき事項と、自分で考えて対応できる事項との判断に迷わない。

願わくは、本家APAマニュアルの改訂に伴ってこの本も適宜改訂していただきたい。その際には「改訂」のマーク付きで、APAマニュアルの改訂点が表示されると、一読者としてはとてもありがたいのだが、それは望みすぎだろうか。